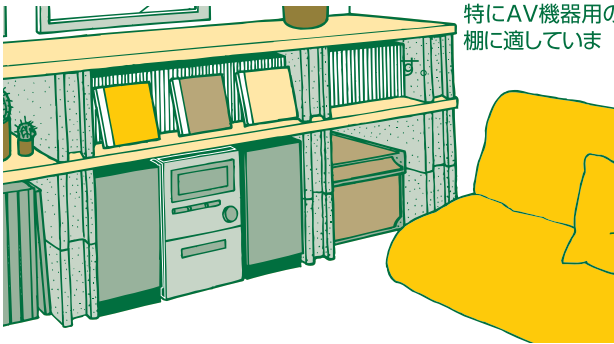


棚のバリエーション

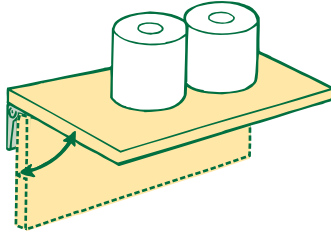
■ブロックやレンガを使う

特にAV機器用の棚に適しています



■折り畳める棚

用があるときだけ使いたい棚は折り畳みできる棚受け金具を使うといいでしょう。台所の作業用の棚やトイレでスベアのトイレレットペーパーを近くに置いておく棚とか、必要なときだけ棚になる便利な棚受け金具です。

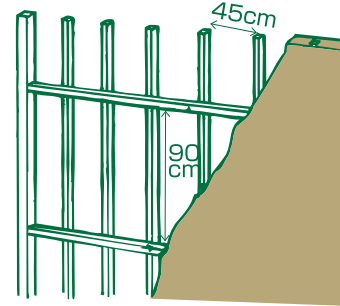


ここがポイント!

壁の中の見えない柱を探す

棚受けは必ずネジやクギのきく柱や椀に取りつけないと、棚が倒れてしまいます。しかし壁の中は見えないので、どこに取りつけていいのか分かりません。そこでその見えない柱をさがす方法を紹介します。

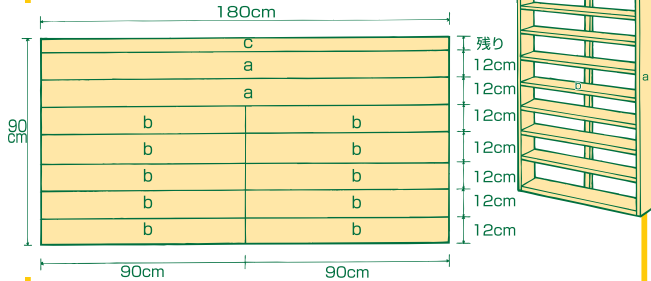
●カナヅチでたたく
壁を軽くたたくと、中が空洞のような音と、つまっているような音がするところが必ずあります。詰まっている音がするところが柱のある場所です。一般の木造住宅では、間柱はタテに約45cm間隔、貫はヨコに約90cm間隔で入っているはず。



●ネイルチェッカーを使う
壁を止めているクギをセンサーで探す道具で、これだと簡単に見つけられます。売場で係員にお尋ね下さい。

☆Let's D.I.Y.

コンパネ一枚で文庫本200冊以上収納できる棚を作ってみよう!



文庫本のサイズはタテ約15cm、ヨコ約11cm。従って文庫本を収納する棚のサイズは天地17cm、奥行き12cmあれば充分。コンパネは180×90cmだから、 $180 \div 17 = 10.58 \dots$ で、9段できます。木取り図は上記のようになります。切断はセキチューの工作室で係員に木取り図を渡して切ってもらってください。後は自分でボックス型にクギを打ちつけてはくだけ。○は捨てないで、本棚の背後の真ん中にクギで打ちつけてください。これをつけるだけで棚の強度が増し、あまりしならなくなります。○の代わりに2.5mm厚のベニヤ板を一枚まるまる背後に打ちつけると、さらに強度が増します。

塗装はお好みで。(当社発行のハウツーペーパー No6「ペンキ塗りの基礎知識」をご覧ください)

ただし、必ず壁にピッタリとつけ、L字金具で倒れ止めをしてください。底の前部に薄い板をはめ、上部を壁に寄りかからせるようにしておくとなお安心です。

サービスのご案内



配送・ベカ便 切り売り商品 修理



返品・交換 表札・額の受注 スペアキーづくり

●クレジットもご利用になれます。



制作発行 / 株式会社セキチュー 販売促進部
〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町4531-1

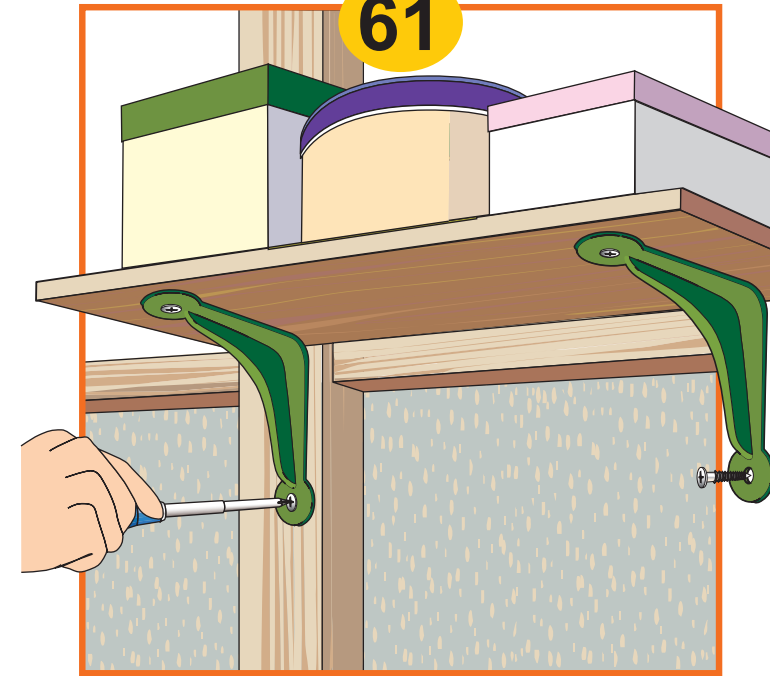
TEL.027-345-1111(大代表)

棚の作り方

自分でやってみよう!

セキチュー
How To D.I.Y

61



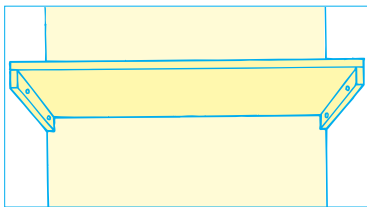
トイレ、台所、洗濯機の上、長押の上、押入の中等、ここに棚があればいいのになんて、日常暮らしているなかでふと思いつくなら、まずこのパンフレットを開いてください。場所に合わせた用具と作り方のバリエーションを紹介しています。

しっかり基本を押さえて作れば、どんなところにだって応用しているいろいろな棚が作れます。

基本的な棚の作り方

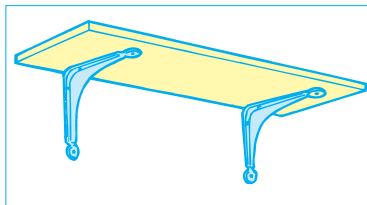
狭い場所

トイレや押入の中、廊下の突き当たりなどコーナー部分に棚をつけたい場合に適している方法です。
受け木を取りつけ、それに棚板を乗せます。(比較的重いものを乗せる場合は、奥にも受け木をつけましょう)

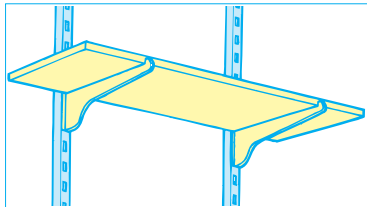


壁面

壁にL字型の棚受けを取りつけて、棚板を乗せます。壁に立体的なちょっとしたアクセントをつけたい場合にはこの方法がいいでしょう。L字型棚受けにはいろいろなデザインがあるので、軽いものや重いものといった、乗せたいものによってその大きさを自由に選べます。

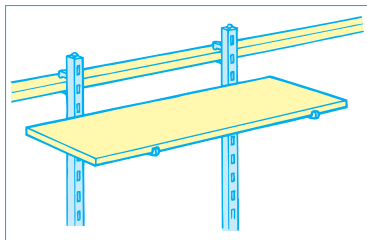


■高さが自由に変えられる棚
棚受け支柱を壁に取りつけ、棚受け金具を使い、高さにつけ変えられます。何段でもつけられるので、いろいろ応用範囲の広い棚です。

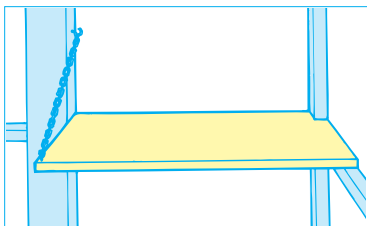


鴨居や長押

■鴨居や長押にクギを打たずにつけられる棚
鴨居をはさむ金具をまず取り付け、それに棚受け支柱をビス止めしてから、棚受けを好きな高さにつけます。

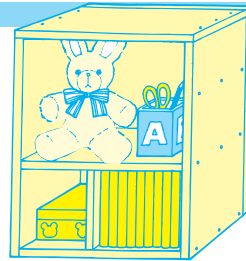


■鴨居や長押の上につける棚
コーナーの片方と奥の長押に棚板を乗せ、片方をチェーンや板で支える棚で、あまり重いものは乗せられません。神棚や箱など、比較的小さなもので軽いものに適しています。

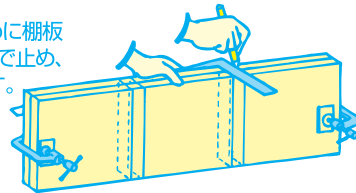


ボックス棚の作り方

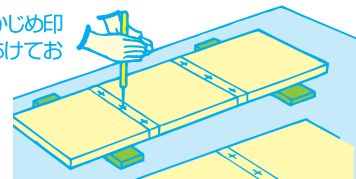
箱を作る要領で中に仕切をつける棚で、比較的重いものを乗せる場合に適しています。この場合はクギを使うより木ネジを使うほうが強度は強くなります。重いものを乗せる場合は、その棚板の下に縦の棧を一枚入れるだけでずいぶん重いものも乗せられるようになります。



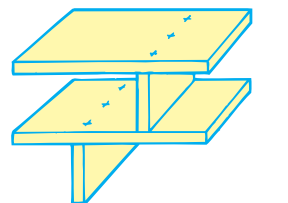
①棚を水平に仕上げるために棚板を2枚合わせてクランプで止め、棚の位置に印をつけます。



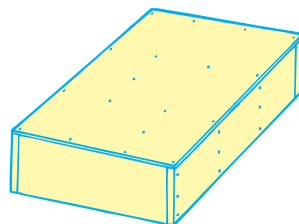
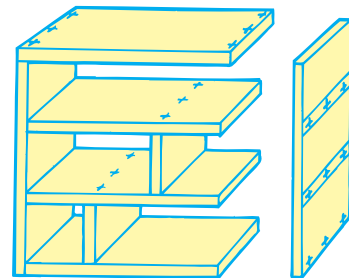
②クギを打つところにあらかじめ印をつけて、キリで下穴をあけておきます。



③縦に仕切を入れる場合は、先に組み立てておきます。



④次に中仕切に箱の外側になる板をネジかクギで止めてできあがりです。

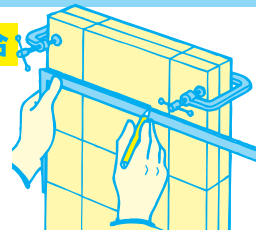


※裏に薄いベニヤ板を張ると箱がしっかりします。

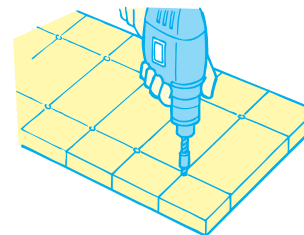
箱の棚受けをダボにする場合

●ダボの取り付け方

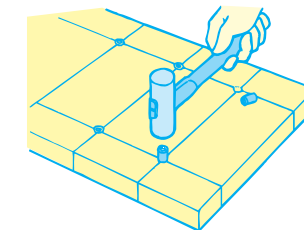
①2枚の棚板をクランプで合わせて、ダボをつける位置に印をつけます。ダボの穴を必要な数よりも多く、5cm間隔ぐらいにつけておくと、仕上がった後からでも棚の高さを調節できます。



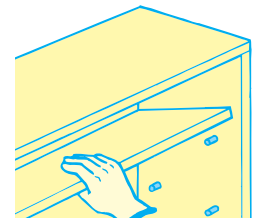
②ダボの径と同じ径のドリルビットで穴をあけていきますが、あらかじめ棚板に入るダボの深さより多少深くなるビットの位置にテープを巻いておくと深くあけすぎることはありません。ドリルは必ず縦に直角になるようしっかり持って穴あけしてください。



③埋め込み式のダボならメスダボをカナヅチで軽くたたきながら埋めていきます。穴がゆるい場合はエポキシ系の接着剤をつけて打ちこんでください。



④本体を組み立ててからダボを差しこんでいきましょう。そしてそのダボの上に棚板を置いてでき上がりです。



ダボの種類

